事業名：JWBF組織基盤強化事業
～中長期計画推進プロジェクト～

団体名：一般社団法人
日本車いすバスケットボール連盟

事業実施の背景・課題、目標

東京2020大会後の競技発展を見据え、全国のブロック・クラブチームへのヒアリングを通じて、「人・物・金・情報」に加え、競技人口・支える人材の減少、事務局の業務負担等を組織課題として整理した。

そこで、中長期計画を「構想」で終わらせず実行へ移すため、
① 推進を担う人材の配置
② 映像による競技価値の発信
③ 会員登録業務のシステム化
を柱として、持続可能な組織基盤の構築に取り組んだ。

本事業における具体的な取組内容

【3年間の取組の流れ】
令和5年度「つくる」：　中核人材を配置し、中長期計画を実行に移す体制を整備
令和6年度「ひろげる」：　全国のブロック・クラブ・企業等との連携、動画発信を拡大
令和7年度「しくみにする」：　人材活用を継続し、映像活用の定着、会員登録制度のシステム化を推進
↓
令和8年度以降「自走する」：　3年間で構築した人・仕組み・連携を通常運営へ定着

3年間を通じた共通テーマ
「する人・みる人・支える人」を増やすため、事務局だけでなく全国の関係者・企業等と連携して事業を推進する組織へ。

計画№1　マネジメント人材の活用
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：中長期計画を推進する中核人材を配置し、計画・進捗・予算・対外調整等を担う体制を整備。全国のブロック、専門部・委員会等との横断的な連携を促進。

計画№2　車いすバスケットボール動画配信強化事業
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：天皇杯・皇后杯等の主要大会を中心にLIVE・収録配信を実施。大会・選手・クラブ・代表活動等の映像を活用し、「みる・支える」層との接点を拡大。

計画№3　会員登録制度設計事業
実施期間：令和7年
取組内容：従来のExcel中心の登録業務を見直し、既存の競技団体向け登録システムを基盤にJWBFの登録制度をシステム化。第1フェーズとして選手・スタッフ登録の導入を進め、業務効率化と継続可能な登録管理体制の整備に取り組んだ。

令和7年度の取組内容

計画№1　マネジメント人材の活用
プロジェクト推進を担う人材の役割を明確化し、計画立案、進捗管理、対外調整等を実施。

計画№2　車いすバスケットボール動画配信強化
天皇杯、皇后杯、U25日本選手権、北九州チャンピオンズカップ、大阪カップ、東日本・西日本選抜大会等でLIVE・収録配信を実施。
代表合宿や大会の舞台裏も収録し、PR素材として活用。

計画№3　会員登録制度設計
既存の登録システムを基盤として、パラ競技特有の項目に限定して開発。当初は2026年3月までの完全データ移行を目指したが、移行作業に遅延が発生。第1フェーズとして選手・スタッフ登録の導入を実現した。

令和7年度は、3年間の取組を「継続可能な仕組み」に移す年度と位置付けた。
人材・映像・会員登録の各取組において、助成終了後の自走を見据え、
「誰が担うか」「どう継続するか」「業務をどう効率化するか」を具体化した。

令和7年度の取組の進捗・成果・課題

取組	進捗・成果	今後の課題
① マネジメント人材	2名体制を継続 プロジェクトリーダー 1名サブリーダー 1名役割を明確化し、事業運営・プロジェクト推進を継続	人材確保・業務分散事業の拡大・高度化に対応するため、特定人材への業務集中を軽減し、継続的な人材確保・育成が必要
② 動画配信	主要7大会でLIVE・収録配信を実施。大会運営や代表強化合宿・紅白戦、メディア取材等にも収録対象を拡大し、PR映像制作に活用。さらに、映像素材をテレビ局・インターネットメディアへ提供し、番組・報道を通じた競技の認知拡大につなげた。	「配信」から「届ける」へ制作・配信体制に加え、より多くの人に視聴してもらうための告知・広報強化が必要。
③ 会員登録制度	第1フェーズの導入 選手・スタッフ登録をシステム化既存システムの活用により、開発・運用コストを抑制	完全データ移行に遅延2026年3月の完全移行には至らず。運用ルール・手続きの整理と、完全移行に向けた継続対応が必要

本事業の成果目標・KPIの達成状況

取組・成果目標	KPI	R5	R6	R7	達成状況	要因・評価／今後
① マネジメント人材の配置・活用	推進人材2名を配置	2名	2名	リーダー1名＋サブリーダー1名	概ね達成	3年間2名体制を維持。 人材確保・育成は継続課題。
② 映像配信による認知・接点拡大	LIVE配信を継続・拡大	5大会	10大会＋YouTube 47本	主要7大会＋代表合宿等へ拡大	達成	配信から多様な映像発信へ発展。今後は視聴誘導を強化。
③ 会員登録制度のシステム化	R7中にシステム導入・完全移行	—	—	第1フェーズ導入選手・スタッフ登録	一部達成／継続	完全移行は遅延。 R8以降、審判・クラス分け等の資格管理にも拡張。

本事業を通じて感じた成果、課題等

【成果等】
中長期計画を「構想」から「実行」へ移し、推進を担う人材、全国との連携、映像発信、会員登録システム等の基盤を構築できた。
特に、事務局だけでなくブロック・専門部・委員会・クラブ・企業等と連携して事業を進める形が生まれたことは、KPIだけでは表れない大きな成果である。

【課題・問題意識等】
事業数・業務の専門性が高まる一方、人材不足や特定人材への業務集中は残っている。
また、映像は「配信する」だけでなく、より多くの人に視聴してもらうための告知・広報強化「届ける」体制が必要。
会員登録制度は第1フェーズとして選手・スタッフ登録を導入できた一方、当初予定していた2026年3月の完全データ移行に遅延が生じた。今後は運用の安定化と対象範囲の拡張が必要である。

【活用・解消にかかる取組み】
事業を継続的に推進するため、役割・業務分担の整理、外部専門人材の活用、JWBF内への映像制作・活用ノウハウの蓄積を進めた。
また、会員登録制度では、既存システムを活用することで、開発・運用コストの抑制を図った。会員登録制度については、第1フェーズとして選手・スタッフ登録のシステム化を進め、今後は審判・クラス分け等の「支える人」の資格登録・更新管理への拡張も視野に入れている。
今後は、これまでに生まれた取組や成果を組織内に定着させ、助成事業終了後も継続できる持続可能な運営体制・仕組みへと発展させていく。

本事業を踏まえた将来的な構想

【令和8年度以降の構想】
3年間で構築した「人・仕組み・連携」を一過性の取組とせず、JWBFの通常運営へ定着させ、持続的に発展できる組織基盤の構築を進める。

① **持続可能な組織運営**
役割・責任を整理し、内部人材の育成と外部専門人材の活用を組み合わせ、特定の個人に依存しない組織運営体制を構築する。
② **デジタル活用**
第1フェーズで導入した選手・スタッフ登録の安定運用と完全データ移行を進める。さらに、競技を「支える人」である審判・クラス分け等の資格登録・更新管理への拡張も視野に入れ、会員・資格情報を一体的に管理できる基盤へ発展させる。
③ **映像の価値向上**
大会配信に加え、選手・代表活動・大会運営等の映像を幅広く活用し、競技の認知拡大や価値向上につながる広報・情報発信基盤へ発展させる。
④ **全国との連携強化**
地域で生まれた取組や成功事例を全国で共有・横展開し、各地域が主体的かつ継続的に取り組める仕組みを構築する。
⑤ **安定的な財源基盤の構築**
各種助成制度を有効に活用するとともに、既存パートナーとの関係深化、新規パートナーの獲得、事業収益の拡大等に取り組み、複数の財源を組み合わせた安定的かつ持続可能な事業運営を目指す。